

# 北海道浮魚ニュース

平成21(2009)年度13号 (通巻 No. 284)

2009年 8月 21日

北海道立水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

道南太平洋の8月下旬のスルメイカ分布密度は過去5年と比較して高く、特に浦河沖に濃密な群れがみられた。魚体サイズは昨年よりやや大きく過去5年平均並み。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2009年8月17日～20日
- ・調査海域：道南太平洋（函館沖～浦河沖～下北半島東沖）
- ・調査船：金星丸（イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）

昨年（2008年8月18日～22日）及び過去5年（2004～2008年）のデータと比較しました。

### 1. 水温分布

漁獲調査地点4地点の表面水温は15.6～21.2℃（昨年18.6～21.3℃）で、全体的に昨年に比べ温度は低く、特に浦河沖St.15周辺に低水温の海域がありました。また、地点間の水温の差が昨年に比べ大きい傾向がみられました。水深50m層の水温は8.4～17.6℃（昨年9.1～13.5℃）で、函館沖St.16を除き、全体的に昨年より低水温となりました（図1、2）。

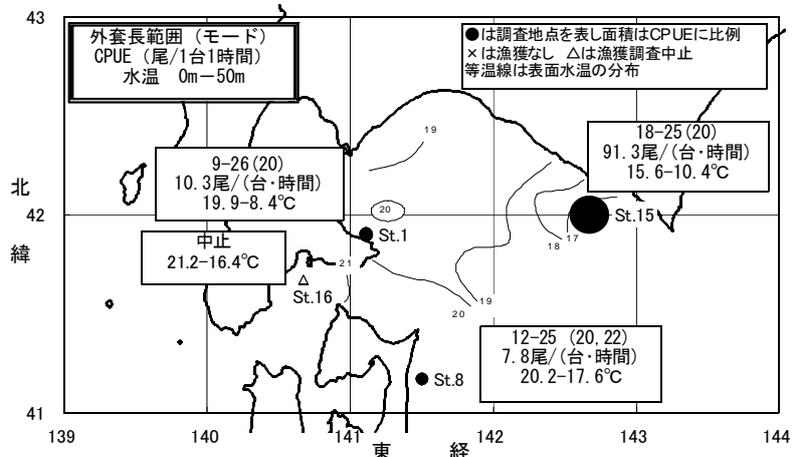


図1 2009年度の漁獲調査結果と水温(2009年8月17～20日)

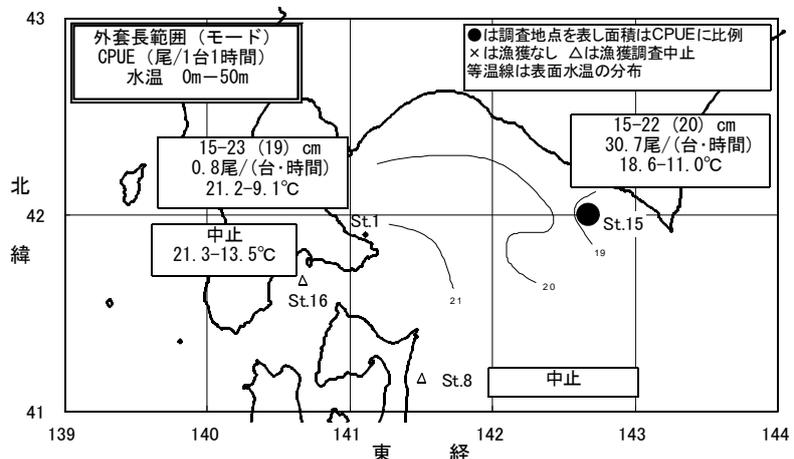


図2 2008年度の漁獲調査結果と水温(2008年8月18～22日)

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋8月）のCPUEと外套長の経年変化

	2004 (H16) 8/18-8/26	2005 (H17) 8/22-8/26	2006 (H18) 8/21-8/25	2007 (H19) 8/20-8/24	2008 (H20) 8/18-8/22	2009 (H21) 8/17-8/20
St. 1(木直沖)CPUE	10.3	3.4	4.7	-	0.8	10.3
St. 8(下北半島東沖)CPUE	24.3	26.7	1.5	6.6	-	7.8
St. 15(浦河沖)CPUE	18.8	23.5	2.6	-	30.7	91.3
St. 16(函館沖)CPUE	2.3	-	4.6	1.7	-	-
平均CPUE (尾/台・時間)	13.9	17.9	3.4	4.2	15.8	36.5
外套長の範囲 (cm)	15-26	15-26	12-26	16-29	15-23	9-26
外套長モードの範囲 (cm)	20-23	19-20	20-21	21	19-20	20-22

## 2. 分布密度

漁獲調査地点4点のうち3点で調査を行いました。3地点のCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）の平均は36.5で昨年の平均（15.8）を上回り、2004年以降では最も高い値となりました。各地点のCPUEは、浦河沖のSt. 15では91.3と2004年以降の全調査点で最も高い値となり、木直沖のSt. 1の値も10.3と、2004年以降の同調査点で最も高い値となりました。下北半島東沖のSt. 8の値は7.8で、2004年以降では中位の値でした（図1、表1）。

## 3. スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、調査点全体で9～26cm（昨年15～23cm）の範囲にありました（図1、3、表1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は20cmで、昨年及び過去5年平均と同程度でした。全体的な外套長組成は、昨年に比べやや大型の個体の割合が高く、

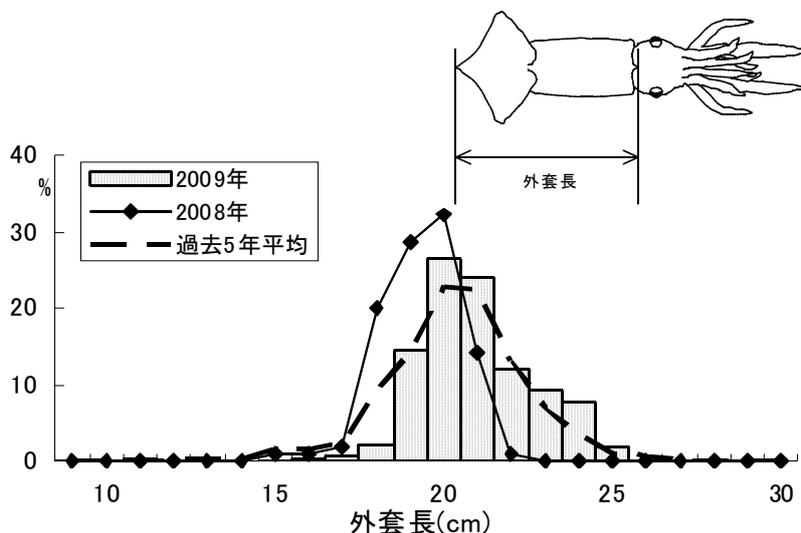


図3 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

過去5年平均並みでした（図3）。また、木直沖St. 1では、外套長9～12cm台の、非常に小型のイカの出現がみられました（図1）。

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997直通、FAX：0138-57-5991）